

◆ 新技術定着試験

養殖モズク培養種の分離、拡大技術の普及

八重山農林水産振興センター 牧野清人

1. 目的

養殖モズクの安定生産のためには培養種の分離、保存、拡大技術の定着が必要であることから、主に現在培養種を使用している八重山地区オキナワモズク養殖業者を対象として指導を行った。

2. 材料及び方法

平成24年8月30日～10月31日にかけて、八重山漁協モズク養殖研究会の7名に対し、滅菌海水の作成方法、寒天培地から液体培地へ移す方法、液体培地の拡大作業について指導した。培養種の分離拡大作業は石垣市の種苗供給施設内のモズク培養室内で行った。寒天培地の取り扱いについては水産海洋研究センターから頂いた培地（知念産、本部産）ならびに八重山海域（竹富沖、小浜沖）で母藻を採集し、寒天培地へ分離したものを指導用として供した。

3. 結果及び考察

水産海洋研究センターより頂いた沖縄モズク寒天培地2種類はそれぞれ300mL液体培地に移し、その後8L梅酒瓶を経て20Lタル6本まで拡大し、種付け用として養殖業者に配布した。寒天培地から寒天培地への植え継ぎならびに寒天培地から液体培地への拡大は、養殖業者に立ち会っていただき、指導しながら行った。

一連の作業において、マイクロピペット等の器具類の使用や使用前の滅菌海水等による洗浄については多少繰り返して覚える必要があったが、モズク培養種の使用法の概要については概ね理解していただき、今後数回指導を繰り返すことで、独自で行えるものと考えられる。

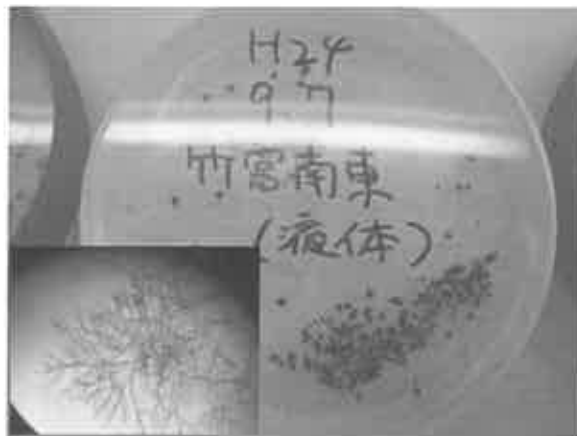


図1. 指導に使用した培地で、母藻から分離、液体培地まで拡大した種を再度寒天へ分離したもの（竹富南東沖採集）



図2. 寒天から拡大した液体培地



図3. 種付け直前のモズク培養室内